

がん患者だって笑うんです —あるキャンサージャーニー—¹

山元浩昭

はじめに

私は膵臓がんの患者で、ステージⅢです。膵臓がんのステージⅢとⅣの5年生存率は8%弱ですから、5年後には天国からご挨拶させていただいているかもしれません。

がんサバイバーの体験を旅にたとえて「キャンサージャーニー」と呼ぶことがあります。今日は「私のキャンサージャーニー」のお話をしようと思います。と言っても深刻な話は気が重いので、私は、「がんになってしもてん」と言ったら「あんたアホやなあ」と笑って言ってもらえる社会を作りたいと考えています。

1. がんとの遭遇

私は今62歳で、猫のまると平蔵、妻との4人家族で暮らしています。子どもはいません。

1985年にNHKに就職し、NHKスペシャルとかクローズアップ現代、ETV特集などドキュメンタリー番組制作の仕事をし、管理職も経験しました。2019年にNHKエンタープライズ(NEP)に移籍し、「NHK番組と事業・イベントの連動」を目標に働き、会社内SDGs活動で子ども食堂支援、防災啓発にも取り組んでいます。

2022年、私は国の事業の一環として、コロナ禍で継続が困